

令和元年度 国立中央青少年交流の家

自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成講習

令和元年 7 月 13 日（土）～7 月 15 日（月）2 泊 3 日

○目的

自然体験活動指導者認定制度における養成カリキュラム（概論Ⅰ）に基づいた講習会を実施し、自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成することで、自然体験活動の推進に寄与する。

○参加者

自然体験活動やボランティア活動に興味・関心のある

高校生、大学生、社会人 計 45 名

内訳

高校生 6 名

大学生 21 名

社会人 18 名



○事業の内容

（１）研修①「体験活動プログラム」

講師：玉川大学 TAP センター 准教授 村井 伸二 氏

自然体験活動の意義や青少年の現代的な課題について、様々なアクティビティを通して体験的に理解を深めた。自然体験という言葉一つをとっても、参加者の年齢や経験によって異なる体験をしているため、参加者の背景を考慮する必要があることなど、対象者を理解することについて学んだ。



（２）研修②「青少年教育における体験活動」

国立中央青少年交流の家 次長 桑山 宗大

青少年教育における目的や目標について、教育基本法や社会教育法を踏まえながら理解を深めた。また、体験活動の定義や分類を確認し、青少年教育にとって体験活動はどんな意義があるのかについて学んだ。



（３）研修③「富士山幕岩・双子山トレッキング」

登山ガイド やまぼうし 春木 紀広 氏

登山ガイドによるトレッキング研修を行い、プログラムのねらいや効果や感動を直接体験することが重要であることを理解した。実技と座学を通して、トレッキングの歩行、読図、危険箇所の通過、山の楽しみ、避難対策（セルフレスキュー）、登山のマナーなど、指導者として必要な登山技術を身につけた。



(4) 研修④「野外炊事～夕食～」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

火起こし、薪割り、調理の仕方、刃物の取り扱い方など、野外炊事の基本的な技術を身につけた。カレーライスその他、飯盒でのお米の炊き出し、ドラム缶を利用したピザやナンづくりと様々な調理に班で役割分担をしながら挑戦した。



(5) 研修⑤「野外炊事～朝食～」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

野外炊事の朝食づくりでは、洗い物が少なく調理の手間が少ないカートンドックとホットサンドづくりを行った。自然体験活動のプログラムの流れを考えるうえで、参加者の健康状態への配慮や負担軽減が大切であることなどを学んだ。



(6) 研修⑥「安全管理」

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

自然体験活動における基本的な安全管理を理解するために、一次救命処置について学び、ダミー人形を使用し救急隊に引継ぐまで胸骨圧迫をやり続けることや AED の使用方法を学んだ。また、教育現場ではどんな事例があるのか、実際に講師の体験談を聞き、安全管理について理解を深めた。



《参加者の感想》

- ・様々な年齢層の方と話すことができ、とても良い講習会となった。
- ・各講師の方々も非常に個性があり、実体験豊富で楽しく受講することができた。
- ・今回の内容は自然に特化したプログラムだったが、自然を離れても活用できる内容が多く勉強になった。今後も自身の現場で活用していきたい。
- ・現在の仕事につながる内容で、大変有意義な講習となった。
- ・学生の参加者が多く、いつもとは違った雰囲気でもドキドキしたが、「今の若者」を肌で感じることで良かった。
- ・情報交換の時間は将来を決定していく中で、とても良い時間となった。
- ・自分自身、まだまだ勉強不足なことが多いと実感し、たくさん学ぶことのできた3日間だった。
- ・年齢関係なく、価値観の違う人同士でも楽しく関わり合える機会はとても貴重だった。
- ・体験を踏まえた授業、興味を湧き立てる話し方など、自分に足りないものを多く発見できた。
- ・自然体験活動は、考えれば考えるほど奥が深く、面白くなっていくのだと感じた。

《成果と課題》

- 今年度の講習会には、ボランティア活動に興味のある高校生、教員など将来子供と関わる仕事を目指す大学生、自然体験活動に興味のある社会人などの参加があり、目的や年齢層の異なる多様な参加者が集まった。参加者同士で学び合う姿が多くみられ、今後の活動へ大変有意義な講習であったと多数の意見が寄せられた。
- 講義形式で聞く学びよりも、実際に自然のフィールドへ移動し、体験から学ぶ機会を増やすよう講習会の運営を行った。参加者からは、体験的に学べたと好評を得ることができた。
- 募集人数を大幅に超えた申込があり、年齢層も幅広い大人数での講習会運営となったことで、参加者の戸惑いや負担を強いてしまう部分があった。参加者数とスタッフ数、活動グループなどを考慮し、運営を見直す必要があると感じた。
- NEAL リーダーの認定を受けても、その後の活躍する場が少ない。資格認定後に身につけた技術や知識を発揮できるように、活躍できる機会を充実させる必要がある。